



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月8日

上場会社名 井村屋グループ株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 2209 URL <https://www.imuraya-group.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大西 安樹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長ファイナンス室長 (氏名) 富永 治郎 (TEL) 050-1791-2014
 四半期報告書提出予定日 2024年2月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	36,992	7.5	2,228	21.3	2,454	16.9	1,692	△1.2
2023年3月期第3四半期	34,411	7.5	1,837	20.1	2,100	19.7	1,714	48.0

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 1,942百万円(9.4%) 2023年3月期第3四半期 1,775百万円(53.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	129.38	—
2023年3月期第3四半期	131.01	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	38,800	20,259	52.2
2023年3月期	34,107	18,684	54.7

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 20,235百万円 2023年3月期 18,653百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	28.00	28.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	28.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	46,500	4.1	2,000	0.4	2,100	△8.1	1,400	△13.1	107.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	13,086,200株	2023年3月期	13,086,200株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	2,278株	2023年3月期	1,919株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	13,084,116株	2023年3月期3Q	13,084,386株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

令和6年1月1日に発生した能登半島地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う経済活動の正常化が進み、またインバウンド需要も増加する中、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、物価上昇、為替変動、不安定な国際情勢による地政学リスクの影響など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは2023年度、中期3カ年計画「Be Resilient 2023 ～新しい時代をしっかりと生きる～」の最終年度を迎え、財務目標並びに非財務目標の達成と今後の中長期プランを策定する重要な年次となっています。現状、中期3カ年計画の目標数値に対しては計画に沿って順調に進捗しており、確実な目標達成を目指してまいります。

今年度はパーパスである「おいしい！の笑顔をつくる」を追求していくため、活動テーマを「倦まず・弛まず・積極果敢」として、サステナブル経営を目指し、目標達成に向けたイノベーションに取り組んでおります。

三重県津市「中勢北部サイエンスシティ」内に竣工した井村屋株式会社「あのとFACTORY」はグループ全体の成長戦略に向けて順調に稼働を始め、生産性の向上や省エネなど、その効果を発揮しつつあります。また、井村屋フーズ株式会社の調味料事業では、粉末加工商品の拡大に向け、品質面と環境面そして生産性向上の観点から新たな付加価値を創造する新工場スプレードライヤー6号機を9月に竣工し、計画に沿って順調に稼働しております。独自技術を活かした新規商材の提案を行い、市場開拓を進めていきます。海外市場開拓に向けても積極的な提案活動を進め、更なる成長戦略に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、井村屋株式会社の冷菓カテゴリーや点心・デリカカテゴリーを中心に各カテゴリーの売上が増加しました。また、井村屋フーズ株式会社におけるOEM商品の受注が順調に推移しました。その結果、連結売上高は、369億92百万円（前年同期比7.5%増）となりました。

損益面では、原材料価格、物流費用が増加する中、価格の改定を行うとともに継続した生産性向上活動によりコスト削減を図ったことで営業利益、経常利益が増加しました。親会社株主に帰属する四半期純利益においては、前期に特別利益として計上した井村屋株式会社「あのとFACTORY」に対する補助金収入4億14百万円が今期は発生していない影響により前年同期から減少しました。

その結果、営業利益は22億28百万円（前年同期比21.3%増）、経常利益は24億54百万円（同16.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は16億92百万円（同1.2%減）となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

① 流通事業

流通事業（BtoC事業）の中心となる井村屋株式会社では、冬場の主力となる「肉まん・あんまん」などの点心・デリカカテゴリーが好調に推移し、冷菓カテゴリーも売上が増加しました。BtoB事業の井村屋フーズ株式会社では、スパウチ商品の受注が順調に推移しました。

以上の結果、流通事業の売上高は335億48百万円（前年同期比8.5%増）となり、セグメント利益は30億32百万円（同18.6%増）となりました。

流通事業におけるカテゴリー別の概況につきましては以下のとおりです。

（菓子カテゴリー）

「片手で食べられる小さなようかん」の売上が伸長し、宇治抹茶を使用した新商品の「片手で食べられる小さなようかん 抹茶」も順調に推移しました。鳥インフルエンザの影響による鶏卵不足から上期に生産調整を行った「カステラ」も10月～12月では売上が増加しました。また、災害時にお役立ちする備蓄用商品「えいようかん」は高い評価をいただいております。

以上の結果、菓子カテゴリーの売上高は51億25百万円（前年同期比0.7%増）となりました。

(食品カテゴリー)

「カップおしるこ」「お気に入りしるこ」などホットデザート商品が好調に推移しました。また、新商品の「レンジで煮物 かぼちゃのそぼろ煮」「レンジで煮物 なすのみぞれ煮」も好評をいただいております。冷凍食品では「ゴールドまん」シリーズの売上が増加しました。井村屋フーズ株式会社の食品加工事業では、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、スポーツやイベントの活発化に伴いパウチ商品の受託加工が順調に推移しました。

以上の結果、食品カテゴリーの売上高は64億25百万円（前年同期比11.7%増）となりました。

(デイリーチルドカテゴリー)

「豆腐類」では「硬め豆腐」や「そのまま食べて美味しい豆腐」の売上が伸長し、販売戦略上では、業務用向け商品の販売を強化し、売上が増加しました。

以上の結果、デイリーチルドカテゴリーの売上高は15億2百万円（前年同期比1.3%増）となりました。

(冷菓カテゴリー)

発売50周年を迎えた主力商品「あずきバー」シリーズが引き続き好調に推移しました。記念限定商品の「こしあんバー」「あずきバー 復刻版」も好評を得て、第3四半期において過去最高の売上本数2億89百万本を記録しました。米国のIMURAYA USA, INC. やマレーシアのIMURAYA MALAYSIA SDN. BHD. においても現地で「あずきバー」の販売促進活動を積極的に展開し、海外市場での更なる成長戦略に取り組みました。また、新商品の「SHALILI カフェラテアイス」「ショコラケーキアイス」も売上増加に貢献しました。

以上の結果、冷菓カテゴリーの売上高は135億97百万円（前年同期比12.9%増）となりました。

(点心・デリカテゴリー)

「肉まん・あんまん」などの点心・デリカテゴリーは、コンビニエンスストアにおける付加価値を高めた新商品やリニューアル商品が好調に推移し、売上が増加しました。

以上の結果、点心・デリカテゴリーの売上高は64億92百万円（前年同期比6.5%増）となりました。

(スイーツカテゴリー)

スイーツカテゴリーでは、コロナ禍からの社会経済活動の活性化に伴い客数が順調に回復する中で、「La maison JOUVAUD (ラ・メゾン・ジュヴォー)」各店舗の売上は前年同期を上回りました。催事販売としても11月に株式会社JR東日本クロスステーションが店舗展開する「コレもう食べた？」(JR新橋駅)に期間限定で出店しました。また、「アンナミラーズ」では、前年に「アンナミラーズ高輪店」を閉店した影響により売上は減少しましたが、バーチャルショップをグランドオープンし、12月には「コレもう食べた？」(JR高円寺駅)に期間限定で出店し好評を得ました。お客様に感謝の気持ちをお伝えするとともに様々なブランドの活用を展開しております。

以上の結果、スイーツカテゴリーの売上高は3億14百万円（前年同期比15.7%減）となりましたが、今後のブランド活用に期待がもてる状況となっております。

(VISON (ヴィソン) カテゴリー)

VISON (ヴィソン) では、三重県の水と酒米、酵母にこだわった日本酒の製造・販売を行う「福和蔵」と、和菓子を販売する「菓子舗井村屋」の2店舗を三重県多気町の大型商業リゾート施設内にて運営しております。「福和蔵」においては、「福和蔵 純米大吟醸」が、5月に世界的に最も権威のある審査会の一つであるIWC (インターナショナル・ワイン・チャレンジ) 2023 SAKE (日本酒) 部門「純米大吟醸酒」カテゴリーにおいてゴールドメダルを受賞しました。更に9月には「福和蔵 純米吟醸」が全米日本酒飲評会において金賞を受賞し、高い評価をいただくとともに認知度も向上しております。「菓子舗井村屋」においては、「酒々(ささ)まんじゅう 芳醸菓」や季節の味覚を取り入れた限定商品を店舗にて販売しております。11月には初めて松坂屋名古屋店にて催事販売を行い、好評を得ております。

以上の結果、VISON (ヴィソン) カテゴリーの売上高は90百万円（前年同期比2.5%増）となりました。

② 調味料事業

国内では井村屋フーズ株式会社のシーズニング事業において、家庭内食向け需要の高まりにより調味料商材が堅調に推移しました。また、9月に竣工した新工場スプレードライヤー6号機は計画に沿って稼働し、生産性の向上が図られています。中国での調味料事業は、ゼロコロナ政策終了後の経済回復の遅れや不動産不況の影響もあり、中国国内の売上が減少しました。

以上の結果、調味料事業の売上高は32億71百万円（前年同期比1.4%減）となり、セグメント利益は5億32百万円（同5.1%減）となりました。

③ その他事業

イムラ株式会社においてSDGsの一環として井村屋商品のアウトレット販売を行っている「MOTTAINAI屋」は、引き続き地域のお客様に好評をいただいております。また、「ソフトアイスクリーム&スイーツ店 WaiWai（ワイワイ）」においては、「アンナミラージュ」「ジュヴォー」のクリスマスケーキを販売し売場の活性化を図りました。

以上の結果、井村屋グループ株式会社の賃貸事業を加えた、その他事業の売上高は1億72百万円（前年同期比5.4%増）となり、セグメント利益は45百万円（同122.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は388億円となり、前連結会計年度末に比べ46億93百万円の増加となりました。流動資産は、冬物商品の販売及び月末銀行休業日に伴う売掛金の増加などにより、35億11百万円増の162億47百万円となりました。固定資産は、新しい製造設備の導入に伴う建物及び機械装置の増加や、投資有価証券の評価額の増加などにより、11億81百万円増の225億53百万円となりました。

負債は185億40百万円となり、前連結会計年度末に比べ31億17百万円の増加となりました。流動負債は、未払金や冬物商品の生産に連動した買掛金の増加などにより、29億53百万円増の158億74百万円となりました。固定負債は、長期繰延税金負債の増加などにより、1億63百万円増の26億65百万円となりました。

純資産は利益剰余金の増加などにより、15億75百万円増の202億59百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期通期の連結業績予想につきましては、「おしるこ」や「ぜんざい」などの冬物商品に加え、冷蔵商品が好調に推移しておりますが、不安定な世界情勢を背景に原材料価格や物流コストの上昇が続いており、消費動向も依然として先行き不透明な状況にあることを慎重に考慮し、2023年5月11日付の「2023年3月期決算短信」において公表いたしました業績予想につきましては現時点では変更はありません。

ただし、今後の業績推移等によって通期業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,689,190	1,049,942
売掛金	5,506,881	9,478,481
商品及び製品	3,109,594	3,195,434
仕掛品	339,849	253,644
原材料及び貯蔵品	993,321	997,156
その他	1,098,141	1,274,340
貸倒引当金	△1,189	△1,596
流動資産合計	12,735,789	16,247,404
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	19,245,265	20,015,477
減価償却累計額	△11,204,371	△11,564,011
建物及び構築物(純額)	8,040,893	8,451,466
機械装置及び運搬具	18,689,994	19,575,340
減価償却累計額	△14,660,478	△15,142,610
機械装置及び運搬具(純額)	4,029,516	4,432,730
土地	4,253,858	4,351,538
その他	3,193,792	3,180,746
減価償却累計額	△1,171,013	△1,321,928
その他(純額)	2,022,779	1,858,817
有形固定資産合計	18,347,048	19,094,552
無形固定資産		
リース資産	127,051	111,862
その他	42,700	28,873
無形固定資産合計	169,751	140,735
投資その他の資産		
投資有価証券	1,482,989	1,895,193
退職給付に係る資産	917,445	918,166
その他	466,979	516,061
貸倒引当金	△12,756	△11,576
投資その他の資産合計	2,854,658	3,317,844
固定資産合計	21,371,458	22,553,133
資産合計	34,107,247	38,800,537

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,739,475	3,650,679
電子記録債務	1,864,294	2,291,232
短期借入金	2,600,000	3,800,000
1年内返済予定の長期借入金	100,536	25,737
未払金	3,746,564	4,247,860
未払法人税等	626,512	402,317
賞与引当金	601,187	312,000
その他	642,227	1,144,946
流動負債合計	12,920,797	15,874,772
固定負債		
執行役員退職慰労引当金	56,580	62,754
退職給付に係る負債	38,472	39,704
資産除去債務	142,055	142,924
その他	2,264,910	2,420,397
固定負債合計	2,502,018	2,665,780
負債合計	15,422,816	18,540,552
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,576,539	2,576,539
資本剰余金	3,810,519	3,809,656
利益剰余金	9,841,358	11,168,659
自己株式	△4,221	△5,042
株主資本合計	16,224,196	17,549,813
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	201,956	497,273
土地再評価差額金	1,930,419	1,930,419
為替換算調整勘定	13,953	19,436
退職給付に係る調整累計額	282,571	238,914
その他の包括利益累計額合計	2,428,901	2,686,044
非支配株主持分	31,333	24,125
純資産合計	18,684,431	20,259,984
負債純資産合計	34,107,247	38,800,537

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	34,411,411	36,992,778
売上原価	22,202,319	24,265,697
売上総利益	12,209,092	12,727,081
販売費及び一般管理費	10,371,295	10,498,314
営業利益	1,837,797	2,228,767
営業外収益		
受取配当金	48,339	55,048
受取家賃	26,166	24,386
為替差益	144,957	117,577
その他	65,330	68,963
営業外収益合計	284,794	265,976
営業外費用		
支払利息	15,152	38,945
その他	7,256	1,354
営業外費用合計	22,408	40,299
経常利益	2,100,182	2,454,443
特別利益		
投資有価証券売却益	17,093	-
補助金収入	443,372	43,806
その他	1,618	-
特別利益合計	462,084	43,806
特別損失		
固定資産除却損	12,733	1,149
その他	2,615	-
特別損失合計	15,348	1,149
税金等調整前四半期純利益	2,546,918	2,497,100
法人税、住民税及び事業税	866,435	765,393
法人税等調整額	△23,679	46,306
法人税等合計	842,755	811,700
四半期純利益	1,704,162	1,685,400
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△10,003	△7,397
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,714,166	1,692,797

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	1,704,162	1,685,400
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	75,625	295,317
為替換算調整勘定	47,281	5,672
退職給付に係る調整額	△51,916	△43,657
その他の包括利益合計	70,989	257,332
四半期包括利益	1,775,152	1,942,733
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,782,906	1,949,940
非支配株主に係る四半期包括利益	△7,753	△7,207

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	30,929,983	3,317,448	34,247,431	163,979	34,411,411
セグメント間の内部売上高 又は振替高	54,782	237,915	292,697	11,630	304,328
計	30,984,765	3,555,364	34,540,129	175,609	34,715,739
セグメント利益	2,555,866	561,121	3,116,987	20,387	3,137,375

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	3,116,987
「その他」の区分の利益	20,387
全社費用(注)	△1,299,578
四半期連結損益計算書の営業利益	1,837,797

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	33,548,786	3,271,217	36,820,003	172,775	36,992,778
セグメント間の内部売上高 又は振替高	57,266	266,803	324,070	12,603	336,673
計	33,606,053	3,538,020	37,144,073	185,378	37,329,452
セグメント利益	3,032,052	532,714	3,564,766	45,392	3,610,158

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	3,564,766
「その他」の区分の利益	45,392
全社費用(注)	△1,381,391
四半期連結損益計算書の営業利益	2,228,767

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。